



軽井沢自主上映会



教えられなかった戦争・沖縄編
— 阿波根昌鴻・伊江島のたたかい —

阿波根昌鴻

5/31 (土)

13:30-15:20
(開場 13:00)

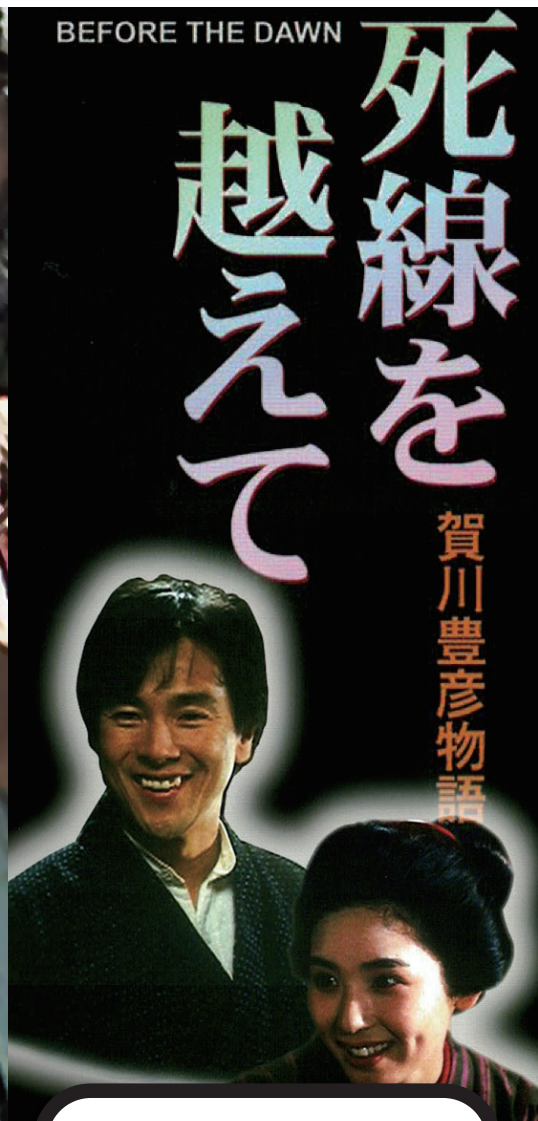


荒野に希望の灯をともす
— 医師・中村哲 現地活動35年の軌跡 —

中村哲

5/31 (土)

15:40-17:10
(開場 15:25)



BEFORE THE DAWN

死線を越えて

賀川豊彦物語

賀川豊彦

6/4 (水)

17:30-19:35
(開場 17:00)

中軽井沢図書館 2階 多目的室

軽井沢町長倉3037-18 中軽井沢駅

いい映画を観よう実行委員会では、今後も上映会を続けていきたいと考えています。
お手伝いくださる方を随時募集しています。
集会、地区公民館、お店等での出張上映会もいたしますので、お気軽にご相談ください。

入場無料

カンパのご協力をお願いします。
ペシャワール会への寄付と、チラシ代等の経費に使わせていただきます。

定員50名様

当日先着 10名様
ネット予約 40名様

駐車場は 町営 中軽井沢駅前駐車場(中軽井沢駅 東側)をご利用下さい。
開館中に図書館カウンターへ駐車券を持参し、無料券をお受け取りください。

インターネット予約・詳細情報

<https://goodmovies.show-room.jp>



主催：いい映画を観よう実行委員会 090-9357-2291 (まるやま)

後援：軽井沢町 / 軽井沢町教育委員会 / 軽井沢町社会福祉協議会

教えられなかった戦争・沖縄編
—阿波根昌鴻・伊江島のたたかい—



1999年制作 / カラー / 110分
映像文化協会

私たちの平和運動は、米軍基地を日本からなくしただけでは終わらない。
平和憲法を世界に広め、地球上から戦争も武器もなくす。そして地球の資源をすべての人で平等に分け合える社会、能力に応じて働き、必要なだけ受け取れる社会を築くまで続けるのです。

「平和の最大の敵は無関心」

阿波根昌鴻さん

阿波根さんは戦後の伊江島土地闘争において、命を守るために土地を守るのだから、土地を守るたたかいで命をなくしてはいけないといい、穏やかに相手を説得し、敵の中に味方を作っていくというしなやかなたたかきな沖縄のたたかきを実行されました。

石原昌家さん（沖縄国際大学教授）

反戦平和資料館を通して願うことは、戦争のすさまじさ、愚かさを伝え、命の大切さ、二度と戦争があつてはいけないということを知ってもらうことです。

阿波根さんとともにたたかい続けている

謝花悦子さん（「やすらぎの家」代表）

63才で中央労働学院に入学した阿波根さんは、こちらが圧倒されるぐらい真剣な態度で勉強されました。科学的社会主義を学んで、世の中のこれまでのことが全部ひっくりかえるような新しい喜び、学ぶ喜びを感じていたあの顔付きを今でも思い出します。

阿波根さんが中央労働学院で学んだ畑田重夫さん

荒野に希望の灯をともし
—医師・中村哲 現地活動35年の軌跡—



2022年制作 / カラー / 90分
(株)日本電波ニュース社

アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲。

NGO 平和医療団日本 (PMS) を率いて、医療支援と用水路の建設を行ってきた。

活動において特筆すべきことは、その長さだけでなく、支援の姿勢がまったく異なることなく、一貫していたことだ。一連の活動は世界から高く評価され、中村医師は人々から信頼され、愛されてきた。

いま、アフガニスタンに建設した用水路群の水が、かつての干ばつの大地を恵み豊かな緑野に変え、65万人の命を支えている。

しかし、2019年12月。用水路建設現場へ向かう途中、中村医師は何者かの凶弾に倒れた。その突然の死は多くの人々に深い悲しみをもたらした。

だが、一方で私たちに強く問いかけもする。中村医師が命を賭して遺した物は何なのか、その視線の先に目指していたものは何なのか。

中村哲が遺した文章と200時間に及ぶ記録映像をもとに、現地活動の実践と思想をひも解く。

BEFORE THE DAWN

死線を越えて

賀川豊彦物語



1988年制作 / カラー / 125分
(株)現代ぷるだくしゅん

■ものがたり

熱心なキリスト教信者の賀川豊彦は医者から二年の命と宣告され、命ある限り人に奉仕しようとして神戸の貧民窟に移り住んだ。しかし、そこに住む人々は皆賀川から金をかすめ取るうとする。ある日家財道具をすべて盗まれてしまった。そんな時行き倒れの出口が運び込まれ賀川は極貧の中で助けた。出口は恩人・賀川の弟子となり賀川はさらに貧しい人々のために尽くした。賀川は煙突掃除の仕事をしている時、印刷工場で働くキリスト教信者のハルと知り合った。ハルはトラコーマで片目が不自由ながら人のために尽くし、賀川はこの人こそ自分の伴侶と信じて結婚を申し込んだ。賀川はその後貧困を根本的に直そうとアメリカへ留学。労働組合の勉強へ出かけた。そして帰国後、川崎、三菱両造船の日本初の大ゼネストの指導者となった。賀川は労働運動に身を投じ、何度か投獄もされたが、民衆のために戦った。しかし、キリスト教的平和主義者の賀川は労働運動が激化する中で、協同組合や農協などの創立に力を注ぐようになった。生涯に二、三度と死を宣告された賀川は72歳で永眠するまで神を愛し民衆を愛した。